

校種	高校
教科・領域	音楽Ⅰ（1年生対象）
単元	総合芸術における音楽の役割を知ろう 歌劇「カルメン」（全6時間）
活用・支援の種類	レファレンス
図書館との関わり	歌劇「カルメン」の主要な場面の楽曲をキーボードで演奏し、鑑賞する。 作曲家ビゼーや「カルメン」という作品そのもの、スペイン、闘牛、ロマ（ジプシー）に関する資料が欲しい。 また、「魅力的な女性に惑わされる男性」が登場する文学作品をあげて欲しい。
授業のねらい	劇中に何度も登場する「運命のモチーフ」に着目し、音楽が果たす役割について考える。 作品の成立背景や、ロマの音楽が当時の音楽に影響を与えた様子を鑑賞と創作を通して知る。
キーワード1	ロマン派のオペラ
キーワード2	カルメン
キーワード3	ロマ（ジプシー）
授業計画	<p>第1次 第1時 ・歌劇「カルメン」の中の曲を演奏しよう。 ・あらすじと登場人物を理解しよう。</p> <p>第2時 ・「運命のモチーフ」に着目して、前奏曲と「ハバネラ」を鑑賞しよう。</p> <p>第3時 ・「運命のモチーフ」に着目して、「闘牛士の歌」と「花の歌」を鑑賞しよう。</p> <p>第4時 ・「運命のモチーフ」に着目して、終幕を鑑賞しよう。</p> <p>第2次 第1時 ・歌劇「カルメン」の成立背景や似たテーマの文学作品について知ろう。</p> <p>第2時 ・ロマの音楽の特徴やその広がりについて知ろう。 ・ロマの音楽の特徴を生かして即興表現をしよう。</p>

生徒の学習感想

・オペラをみたことは初めてで、とても興味が湧きました。ミュージカルはみたことがありましたが、オペラを今までみなかったことに少し後悔しています。また、運命のモチーフが流れることにより場面の緊張感がよりいっそう強調されて聞こえてきました。全体的に感情の起伏が激しい物語だと感じ、その感情の起伏さえも音楽で表現しているところに感動しました。感情というものは人の表情だけではなく音楽を使ったり、小道具などでも表現できることから工夫が沢山施されていると思いました。他のオペラ作品やミュージカルなどを試聴したいです。

・ビゼーがカルメンの成功を知らずにこの世を去ったのが残念です。どのように修正され、売れて行ったのか、原曲と比べてみたいと思いました。登場人物の多い大河ドラマを見ていると、ある人の登場シーンだけで鳴る曲があります。ミュージカルを見ていると、短いモチーフがいろいろなところでBGMとして流れていたり、違う曲なのに

他の曲のメロディーが少し入っていたりします。オペラの工夫は現在でも使われているのだと思いました。映画を見ながら自分でモチーフを探すと今までよりも楽しめそうです。

・今回は、ジプシーの音楽について学んだ。人の移動によって、音楽も移動するのだと感じた。そして、更に、人の移動によって元々その場にあった音楽と混ざりあい新しい音楽が生まれるのだとも感じた。

・ロマの音楽は、トリルと一音ずつ上ったり下ったりする旋律が特徴的だと思いました。旋律が短調の時は、ゆったりとした速度で一音ずつ下りていき、伸ばす音が多く、とても切ない雰囲気醸し出していました。また、不穏な空気を作り出している、低い音でのトリルの伴奏が印象的でした。この切ないメロディーはロマの根なし草の文化を思わせ、それがロマの人々の無意識下で音楽に影響しているのではないかと思います。旋律が長調の時は、トリルや音階の上り下りが多く、速い速度で音が絶え間なく鳴っており、短調の時と一変して明るくせつかな感じがしました。

ロマの音階を使った創作は難しかったです。あまり慣れ親しんでこなかった音階なので、五音音階を使った作曲の時のように、すぐに旋律は思い浮かびませんでした。作曲が難しかったとはいえ、速度がゆっくりのところは、考える余裕もあり、自分なりにお気に入りの旋律を作ることができ、楽しかったです。

授業の後に自分で何回かツィゴイネルワイゼンを聴いてみたのですが、いろんな観点に注目して聴いているうちに、はじめはわからなかったロマの音楽を面白いと思うようになりました。もう少しで何かつかめそうなので、自分なりにじっくり来るまで何回も聴きたいです。

ハバネラの歴史の話聞いて、音楽が世界中を旅して、それぞれの地域の影響を受けながら変化していくことは面白いと改めて感じました。この時代の音楽も、教科書に載っているように客観的に、音楽史として分析・評価すると、どのような表現になるのか気になりました。

授業者 居城勝彦

授業者コメント

歌劇「カルメン」は教科書教材としても取り上げられている作品である。どこかで聴いたことがある有名な曲が多いが、アリアは声種が限定されるため鑑賞のみとすることが多かった。コロナ禍で歌唱活動が行えなかったので、キーボードで作品中の旋律を演奏してから鑑賞をした。生徒にとっては音楽的特徴（運命のモチーフの活用、ハバネラのリズムなど）を捉えやすかったようである。本実践では作品の成立背景として、作曲家ビゼーの生い立ち、ロマン派フランスオペラの特徴、当時のフランス人たちが抱いていたスペインへの憧れ、ロマの音楽の特徴などを取り上げた。また発展的な内容として、ロマの音楽が大西洋を渡るヒトの移動とともに変容し各地の音楽として根付いていった様子を鑑賞から聴きとったり、魅力的な女性に惑わされる男性がテーマになっている文学作品を紹介したりした。いつの時代も人々は作品の中に“非日常”を求める傾向にあり、一見すると非道徳的な作品がもてはやされる傾向を生徒が感じ取る機会とした。

なお、本実践の第1次の展開は結束麻紀先生（東京学芸大学連合学校教育学研究科）の実践研究「オペラの教材性に基づいた舞台芸術の鑑賞に関する実践的研究」のために作成された指導案により実施している。